

「第4回スポーツ環境会議」次第

平成27年2月2日（月）14:00～16:00

新宿区役所5階大会議室

1 出席者

1	今泉 清隆（区体育協会）	9	高橋 昌弘（新宿未来創造財団等担当課長）
2	小菅 知三（区レクリエーション協会）	10	西方 祐子（障害者福祉課長）
3	松永 健（区町会連合会）	11	齊藤 正之（高齢者福祉課長）
4	徳堂 泰作（区障害者団体連絡協議会）	12	木村 純一（健康推進課長）
5	矢崎 礼子（区小学校PTA連合会）	13	吉川 洋志（みどり公園課長）
6	遠藤 通郎（区中学校PTA協議会）	14	木城 正雄（教育調整課長）
7	三田 圭佑（区内スポーツ関連事業者）	15	山本 秀樹（生涯学習コミュニティ課長）
8	関口 美緒（公募委員）		

欠席者 7名

阿部 正幸（区スポーツ推進委員協議会） 間野 義之（学識経験） 世継 信一（区高齢者クラブ連合会）
大塚 フジエ（区青少年育成委員会） 藤原 千里（公募委員） 小柳 俊彦（新宿未来創造財団事務局長）
峯岸 志津子（子ども家庭課長）

配付資料

- 【資料1】スポーツ環境会議設置要綱
- 【資料2】スポーツ環境会議委員名簿
- 【資料3】小菅委員・関口委員・藤原委員・教育調整課からの資料
- 【冊子】「新宿区スポーツ環境整備方針」概要版

2 事務局

生涯学習コミュニティ課

3 会議内容

(1) 開会

(2) 生涯学習コミュニティ課あいさつ

・新宿区スポーツ環境整備方針を持続的・継続的な視点を持って着実に推進していくためのスポーツ環境会議も今回で4回目となる。昨年9月の第3回会議以降、皆様方が取り組まれた内容や、今後予定をされている取り組みについてご報告をして頂くとともに、障害者スポーツの観点からのご意見を承りたい。

(3) 委員自己紹介

(4) 座長の選出

・小菅委員が座長に選出された。

(5) 情報交換・意見交換（要旨）

① 区のスポーツ施設について

- ・先日、屋外スポーツ施設を見て回り各連盟の活動を確認してきた。新宿区の施設は他の自治体と比較してそれほど広くはないが、施設の有効活用のため様々な取り組みを行っているのがわかった。体育協会としては、連盟間の調整を図り、区と財団と今まで以上に親密にしながら、施設の有効利用を考えていきたい。
- ・スポーツセンターは、各種教室事業で利用されている方が多い。設立から長年経過していることもあり、施設が古く障害のある方や高齢者が使うには不便がある。今後ハード面で整備が進めば利用し易くなるが、既存の施設を有効活用しながら多くの方に使って頂きたい。
- ・先日、戸山グラウンドでサッカーの試合が行われたが、前日の雪によりグラウンドがぬかるみ、急遽監督やコーチがグラウンドの整備をしたため試合開始が大幅に遅れた。戸山グラウンドの水はけが悪いので対応して頂きたい。

② 障害者スポーツについて

- ・東京2020パラリンピック競技大会の正式種目が決まった。パラリンピックは身体障害者が対象になるが、障害には知的障害や精神障害など様々ある。障害のある方やない方、子どもからお年寄りまで、一緒になってスポーツを楽しむ機会を充実していく必要があり、その機会をどう作るかが課題である。大人になってからスポーツを始めるのは難しいので、学校や地域で子どもの頃からスポーツに触れ合う機会を作ることが重要である。ふるさとアスリート課外授業などを特別支援学校で実施して頂ければスポーツに対する意識も高くなっていくのではないかと。また、65歳以上の高齢者はほとんどの方が何かしらの障害を持っており、それが普通であるという認識をもつことが重要である。
- ・高齢者は多種多様な社会的組織やグループがあり、一括りに考えてはいけない。例えば前期高齢者と後期高齢者、単身世帯と同居世帯、生活自立高齢者と非生活自立高齢者、平均寿命と健康寿命など様々な形で分類できる。高齢者のスポーツを考える場合、上記要素をよく分析しなければならない。また、高齢者は障害を必ず持っており、特に65歳以上で障害がない人はいないと考えた方がよいが、障害者や高齢者だからこそ、スポーツをやりたいと考えている。カリフォルニアの高齢者団体の事例を見ると、現在の家族形態や人間関係は日本と大きく異なるが、将来日本も同様になっていくと予測できる。欧米では高齢で車が運転出来なくなると自宅に籠るしかなくなるが、将来の日本社会を反映していると考えられる。これらに関しては研究を始めたばかりなので、次回の会議で具体的に分析し発表したい。

③ スポーツイベントについて

- ・町会・自治会では各種団体とのスポーツ交流やコミュニティスポーツ大会に参加している。コミュニティスポーツ大会は地区大会でユニカール、輪投げ、ビーチボールバレーの3種目を共通で行い、中央大会へと進む。ユニカールと輪投げは誰でも参加できる種目だが、ビーチボールバレーは地区によって実力差や温度差があるように感じており、財団やスポーツ推進委員と共に考えていかなければならない問題と捉えている。高齢者のスポーツに関しては、榎地区ではグラウンドゴルフを盛んにやっている。子どものスポーツに関しては、先日行われた新宿シティハーフマラソンで子ども達の参加が多く、家族で楽しんで走っている様子が伝わった。
- ・26年2月に実施した「ゆめじぎょう」では、サッカー元日本代表、バレーボール元日本代表、陸上

選手らをゲストに700人以上の規模でイベントを開催した。また、毎年保護者のスポーツとして、PTAのバレーボール大会や卓球大会を行っている。

・中学生は体育の授業や部活動でスポーツと関わることが多いが、体育の授業では教師によって指導の質の差があり、部活動ではコーチを外部から呼ぶ場合に費用がかかる。また、新宿区ではスポーツが出来る場所と広さが他の区に比べ劣っていると感じる。新宿区は外国籍の生徒が多いので、国際的な交流イベントができればいいと思っている。

・26年度、文部科学省の委託事業として日本レクリエーション協会と共に「ニューエルダー元気塾」を行った。この事業の大きな特色は、自分の体力を数値化しグラフや図表で表すこと、身近な素材を使って簡単な軽スポーツやレクリエーションを行うことにより、元気になるきっかけを自ら発見できること、自分の身体に対する関心が高まることである。この事業は年3回実施しているが、毎年参加することによって効果が出てくる。

④ 各主管課での取り組みについて

生涯学習コミュニティ課

・「スポーツ環境プロジェクト」と称し主に小学生を対象としたスポーツ体験事業を区内の民間団体と共催で行った。事業の周知については小学校のPTAにご尽力頂き大変お世話になった。この事業はサッカーやラグビー、アメフトなどの実技指導に加えて、現役の東大生との懇談会や大妻女子大学教授による食育指導などをプログラムに採り入れて、スポーツが得意ではない子どもたちにも楽しめる工夫をした。来年度はこの事業を基本に、協働事業提案制度を活用し「地域スポーツ推進クラブ・クリアソン」と27年度から3年間「子どもたちのスポーツ体験支援」として事業展開していく。本日もご出席の関係機関の皆様にも、この事業の周知等のご協力をお願いしたい。

・昨年8月に運動消費カロリーの表示を四谷保健センターと連携で実施し、加えて東新宿保健センターと新宿コズミックセンターでも実施した。今後も区内各施設にご協力頂いてカロリー消費だけでなく、体を動かすことの大切さを理解して頂けるような表示を増やしていきたい。

・「障害のある人となない人とのスポーツレクリエーション交流事業」について、文部科学省の事業を日本レクリエーション協会が受託する形で24年度から全国各地で展開されている。26年度は新宿会場が設定され、日本レクリエーション協会が主催、全国障害者総合福祉センター（戸山サンライズ）が共催し、新宿区レクリエーション協会、スポーツ推進委員協議会、若松地区町会連合会、新宿区社会福祉協議会、新宿未来創造財団、新宿区も実行委員として参画している。これを基盤にして27年度からは新宿未来創造財団とともに事業を行っていきたくと考えているので、ご意見・ご助言を賜りたい。

・戸山グラウンドについては水はけが悪いということは承知している。東京都が国から土地を購入するという話もあるが、現段階では東京都の予算が成立していないため、すぐに整備できる状況ではないことをご理解頂きたい。

新宿未来創造財団

・障害者スポーツの場の提供としてコズミックスポーツセンターのプールを活用し、新宿区水泳連盟のご協力を得て「ハンディキャップスイムデー」を実施している。また、「障害者スポーツデー」で各連盟に協力頂き卓球やショートテニスを実施している他、「障がい者スポーツ・学習交流事業」ではサッカーのスポーツ鑑賞やボッチャ教室等を年数回行っている。また、26年度の新しい試みとして、10月体

育の日に行う「新宿スポレク2014～スポーツとレクリエーションの祭典～」でオリンピックとパラリンピアンを招いてご講演と実技を披露頂き、会場にブラインドサッカー体験コーナーを設け障害者スポーツの普及に努めた。また、新宿区の友好都市であるミッテ区の青少年団が2年に1回日本を訪ねてくるが、ブラインドサッカー協会のご協力を頂いて日本の青少年とミッテ区の青少年と一緒にプレイする企画を行った。

- ・知的障害を対象に「新宿青年教室」を実施している。この事業は27年度に開設から50周年を迎える歴史のある事業であるが、参加者の固定と高齢化が進んでおり、ご協力頂けるスタッフも高齢化している。会場の老朽化も進んでおり、設備面の問題等、様々な課題が持ち上がっているため、昨年度末から区の関係機関等と連絡会議を設置しこれらの課題解決に向け協議を始めている。

- ・昨年度から冬季のナイターの屋外施設の時間延長、夏季のプールの早朝開放等、様々な手段を講じて施設の有効活用を図っているが、より多くの方に利用して頂けるように、ご意見を頂戴したい。

- ・コミュニティスポーツ大会は昭和54年から実施している歴史ある事業。地域によって温度差を感じている委員もいるがそのとおりで、これについては新宿未来創造財団の地区担当者あてにご意見を頂きたい。また、中央大会では輪投げが正式競技だが地区大会では独自の種目を取り入れることが可能なので、様々なご意見を頂戴しながら地域スポーツの振興に繋げていきたい。

障害者福祉課

- ・障害者計画・第4期障害者福祉計画の策定を進めており、来年度に障害者施策全体の方針を定める。当課では福祉という観点から生活に関連するような障害者施策を実施しているが、計画の中でもスポーツ環境整備方針という言葉を入れてスポーツに取り組む姿勢を示す。

- ・障害者がスポーツに参加できるように一人一人の状況を確認して支援することが重要。例えば、スポーツの実施会場に行くまでにガイドヘルパーを使えば運動が出来る機会も増えるので、そのような支援を区として考えていくことが重要。また、障害のある方は家族から支援されている場合が多く、家族以外からの支援に慣れていない方が多いため、当課では他人から支援される練習の機会を設けている。

高齢者福祉課

- ・当課はいきがいづくりのための拠点づくりや介護予防への取り組みを行っており、26年度に高齢者保健福祉計画を策定する。高齢者人口が増えていく中で、健康増進やいきがいづくりの重要性が高まっており、高齢者のスポーツを考える上では介護予防という視点が欠かせない。

- ・従来の高齢者の集いの場である「ことぶき館」を、高齢者相互の交流の場と共に介護予防や健康増進の拠点の場として「シニア活動館・地域交流館」へと順次機能転換を進めている。今年の4月から新たに高田馬場第二ことぶき館が高田馬場地域交流館として生まれ変わるため、27年度はシニア活動館4箇所、地域交流館15箇所となる。

- ・地域で介護予防に資する活動を行っているグループ等に対する支援事業としてインストラクターを派遣して筋力向上やバランストレーニング等の指導をする「おたっしや運動出前講座」を行っている。26年度は年間200回分の予算を計上し実施をしたが、応募が大変多く申込み枠を50回分追加した。

- ・平成25年度から高齢者向けの体力測定を実施しており、昨年度から実施個所を7箇所増やし、26年度は19箇所で行っている。また、実施日数について、脳年齢測定等の認知性予防を追加したため2日間から3日間に拡大した。

- ・高齢者クラブへの事業助成を行っており、グラウンドゴルフ、ゲートボール、輪投げ等のスポーツ用具の購入経費や各種スポーツ大会の運営経費の助成を行っている。
- ・国が認知症の国家戦略として「新オレンジプラン」を発表した。厚生労働省が関係府省庁と共同して策定した内容になっている。新オレンジプランのもと、今後区の関係部署と相談し、認知症に対する取組も充実していきたい。

健康推進課

- ・四谷保健センターと東新宿保健センターでカロリー表示を掲示した。どれだけ歩けばどれだけカロリーが消費されるということを示し、日常の中に運動を取り入れていくことを推奨していきたい。
- ・「新宿区健康づくり行動計画」の中で生活習慣病の予防を掲げ、日頃からの健康づくりを推奨している。今後積極的に打ち出していきたいのが「あなたの生活をスモールチェンジ」ということで、例えば食事についてはもう1品さらに野菜を、運動でいえばあと10分歩こうという、生活を大きく変えるのではなくわずかな変化を生活に取り入れていくことで、生活習慣病を押さえ、健康寿命を延ばしていくことを進めていきたい。

みどり公園課

- ・3月末にスポーツを楽しみながら交流できる場としてフットサル施設がオープンする。施設の概要としては、国内の公式戦が可能な30m×16mの人工芝コート、ナイター設備も整えてあるので夜間利用が可能、管理施設には更衣室、温水シャワー、ロッカー、ラウンジも備えている。利用については予め団体登録をして頂くことになるが、詳細については新宿中央公園のホームページをご参照頂きたい。
- ・新宿中央公園にジョギングの距離表示を設置することを検討している。
- ・区立おとめ山公園が全面開園した。面積は2.7ヘクタールで新宿中央公園に次いで2番目に大きい。自然豊かな公園で、落合崖線という起伏に富んだ地形にあり、広い原っぱや池など自然を漫喫できる空間となっている。

教育調整課

- ・オリンピック・パラリンピック教育推進校として東京都教育委員会から西戸山中学校、牛込仲之小学校、花園小学校、西新宿小学校、西戸山幼稚園が指定され、トップアスリートによる講演や実技を行っている。前回の東京オリンピックで牛込仲之小学校の鼓笛隊が参加したということで、当時の方へインタビューをしたり、国立競技場の見学をしながら、子どもたちがスポーツを身近に感じられる取り組みを行っている。
- ・1月26日吉本興業との共催により花園小学校で「ふるさとアスリート課外授業 in 新宿」を開催した。元プロ野球選手や現在メジャーリーグで活躍する選手らが来校し、全児童が参加した。児童の中には「アスリートはとても遠い存在だが、頑張れば練習すれば将来夢がかなう」感想も持ったようだ。
- ・体育の授業で教師の教える力の差についてご指摘頂いた。学校では教育発表会を年2～3回設けており、各学校から教師が集まり、授業の研究・発表や実技を伴う研修を行っている。また、部活動についてご指摘があったが、コーチが少ない状況の中、地域の方々がスポーツに対する思いを持っている方も多いので、新宿地域人材ネット等を活用しながらコーディネートをしていきたい。部活動のコーチは人間性も重視されるので、中々難しいところもあるが、いい人材を確保できるように努力していきたい。

4 平成27年度スポーツ環境会議について

- (1) 次回第5回スポーツ環境会議は、日程が決定次第お知らせする。
- (2) 公募委員の関口委員、藤原委員については、来年度も引続き継続して委嘱する。

5 その他

・フィギュアスケート選手の羽生結弦が早稲田大学に在籍しており、新宿区にはシチズンプラザがある。夢のような話だが、区のイベント等で羽生結弦とイベントをやって欲しい。

高橋 委員（新宿未来創造財団）

- ・実現に向けて具体的なお話をすることは現在出来ないが、体育協会等と相談しながら検討したい。

6 閉会